

茗溪学園中学校高等学校

うたいたいうたをうたいたい（2）

= ぼくらのコーラス・レシピ =

教務部長 田代 淳一

いつか紹介しました茗溪学園音楽科制作『合唱スコア ぼくらのコーラス・レシピ うたいたいうたをうたいたい』（ドレミ楽譜出版社）の「2009年コンプリート版」が12月に出版されました。前回に続き今回も、この本の編集の中心人物でキャラクターでもある「デンチュー先生」こと田中潤一先生のコラムを抜粋して紹介します。

Column04 こうした曲が選ばれる!ワンポイント講座

どんな曲だったら中高生が喜んで歌う合唱に仕立て上げられるか？ メロディーの要素が多く、盛りあがる曲。簡単に言うとそういうことになる。

1回聴いただけで「これはいい!」と思える曲、例えばSing Like Talkingの“La La La”。最初からコーラスを意識して曲が作られている。そしてサビがしっかりハマれて、コーラスの醍醐味にあふれている。ソロあり、アカペラあり、見せ場も多い。そういう曲は即決。

ところがそうでない曲もある。それが“オレンジ”だった。SMAPのヒット曲“ライオン・ハート”のカップリング曲としてひっそりと咲いていた曲。聴いてみると、メロディーの要素は少ない、サビの繰り返しが多い。「う～ん、これは合唱にはしにくいな。」それが第一印象だった。でも生徒たちには絶大な人気があった。

その気持ちに押され、ソロで歌う部分を作ったり、伴奏はピアノだけでなくギターを入れ、サクスの得意な子がいたので間奏を任せた。何回も繰り返されるサビには歌詞を英訳したオブリガート・コーラスを付け加えることにした。

手を変え品を変え、何とかできあがった合唱編曲を生徒たちは嬉々として歌い、なんと校内合唱コンクールで優勝してしまう。優勝できる曲ではないはずだったのに・・・。

「合唱コンクールで“オレンジ”が歌われました」広報部が学園ホームページにそう載せると、驚いたことに全国から問い合わせが相継いだ。番狂わせが二度続いた。「“オレンジ”の合唱楽譜を分けて下さい。」予想もしていなかった。合唱編曲が出版されていないこの曲の合唱編曲を探してネットサーフィンをしている中高生が全国にたくさんいたのだった。

田中潤一（デンチュー）先生はCDも出している現役の演奏家、「アンサンブル音楽三昧」（おんがくざんまい）のリコーダー・フルート奏者です。

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~zammai/JTind.htm>

Column05 やれるものならやってみろ～

“Somebody to Love”でクィーンを大合唱する味をしめたが、いくらなんでも“Bohemian Rhapsody”は無理だろう、と手をつけないうでいた。ところが「ぼくらのコーラスレシピ」を手にした生徒たちが収載曲を全曲制覇した挙句「次は“Bohemian Rhapsody”しかない!」と立ち上がった。「やれるものならやってみろ～!」DENCHU先生が制止するのも聞かず...。そして、卒業生を送る会でバンド伴奏による240人の大合唱“Bohemian Rhapsody”がド迫力で雄叫びをあげたのだった。



文化祭にあちこちに出没するDoo-Wopコーラス

田中潤一先生